

●東京研修の感想

今回東京研修に参加して、私が一番よかったと感じたことは、ディレクトフォースでたくさんのかたたちのお話を聞けたことです。今回私たちにお話しして下さったかたたちは現在にいたるまで本当にたくさん経験をつんできていて、さまざまな仕事をしてきた人たちだったので、自分の世界が広がったような気がしました。特に、国際的に活躍していた人が多く、話を聞いてから私は海外にも目をむけることがこれからは大切なのだなあ、と実感しました。そして、海外で仕事をしてたくさん経験をつんだひとは、そのことによって見える世界が広がるのでその後の新たな仕事も広い視野で取り組めるのだと思いました。

まず始めにお話しして下さった田中伸男さんは、国際エネルギー機関でとてもすごい業績を残したかたでした。私は今まで国際エネルギー機関についてあまり詳しく知らなかったのが田中さんのお話はとても興味ぶかく、ためになるものとなりました。どの話も新しく知ることばかりで、私の知識が広がりました。また、もともと世界のエネルギー問題には少し興味があったので国際エネルギー機関ではたらいっていた田中さんのお話を聞けたことはとてもいい経験だったとおもいます。国際エネルギー機関は第一次石油ショックのあとに OPEC に対抗するためにつくられた機関だそうです。石油の価格は OPEC が決めているので国際エネルギー機関は OPEC との付き合いを大切にしているとおっしゃっていました。さらに、今後は石油の価格が中東にかかっている、中東産の石油の約 90% がアジアに輸出されるようになる。ともおっしゃっていました。私は、この話を聞いて、エネルギーのように国内だけでは解決できない問題を解決するために国際機関が存在するのだとわかりました。そして、自分から積極的に国際社会に進出するべきなのかもしれない、とかんじました。また、田中さんがさまざまな国の人と話をしている写真を見て、とても楽しそうにしていたので私もいつかいろいろな国の人とコミュニケーションをとれるように頑張りたいと思いました。

次にお話しして下さったのは村上悠平さんで、とてもたくさん種類の仕事をされてきた方でした。村上さんは、大学時代は国際法を学び、その後 EPA, TPP, ODA で仕事をし、現在は海洋政策研究所で海洋生物の保全の仕事をしているそうです。このように多種多様な仕事をこなしているにもかかわらず、村上さんは違うことをしているという感覚はないとおっしゃっていました。大学の法学部で学ぶなかで見つけた国際法という 1 つの大きなテーマに向かって仕事をしているという感覚で、お金を、あるところから無いところへうつすしくみを考えるということが一生のテーマだと話してくださいました。私はこの話を聞いて、村上さんがさまざまなジャンルの仕事で成功して活躍しているのは何か 1 つ大きなテーマを自分のなかにもっていて、それにむかって仕事をしているからなのだと気づきました。そして、私も一生のテーマというものを見つけられるようにしていきたいと強

く感じました。これからは、一生のテーマを見つけられるように、自分の関心にかかわらずさまざまな分野の本をたくさん読んで視野を広げていこうとおもいます。

また、さまざまなジャンルの仕事をこなしていくために必要なことは、正解のない問題を解くうえでの考え方を身につけることと、フレームワークのつくりかたを身につけることだとおっしゃっていました。フレームワークとはわく組・起承転結のことでいかに順序立ててものごとを考え、構造を練るかが大切なのだそうです。この話から、日ごろからたくさんのごとに関心をもって自分が持った疑問についてよく考えることがこれらの2つのスキルにつながっていくのかもしれない、と感じました。普段の学校の授業でも「自分で考えなさい」とか「自分で調べなさい」とか言われることがあるので積極的に自分の頭で考えるようにしたいとおもいます。さらに、日常生活のなかで持った疑問も大切にしていきたいです。

次に話をしてくださったのは青木さんというかたで、学生時代は社会という世界への準備期間なので社会でいまなにが起こっているのかを知ることが大切だ、とおっしゃっていました。具体的には、①グローバル化、②ICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）③少子高齢化について知る必要があるそうです。このなかで私がいちばん気になったのは②のICTについてです。現代社会は化学技術の発達によりとても快適で便利なものになっています。しかし、そのことによってほとんどのことが機械やコンピュータでこなせるようになったので人間の仕事がなくなってしまうのだそうです。青木さんのはなしによると、10年後には今ある職業の50%がなくなってしまうということでした。例えば、ドライバーや税理士、弁護士などがいなくなったり減ったり役割が変わったりするそうです。私はこの話を聞いてとても驚きました。それと同時に、科学技術に人間が対抗するにはどうすればよいのだろうか、と疑問に思いました。これからの社会では、そのことについてしっかり考える必要があるとおもいます。

さらに、青木さんは私たちに学生時代にやるべきこともおしえてくださいました。社会という世界への準備期間であるこの時期には何が起ってもぶれない自分をつくる時期なのだそうです。そのために、①夢中になることをみつける、②五感に感じる体験をたくさんする、③whyを自問自答（常に）をするように、と言われました。②の五感に感じる体験をたくさんするということは、嫌なことから逃げなくなるということにつながるのだそうです。だれでも失敗というものは嫌で逃げてしまいがちですが、失敗をおそれずに経験を積むことでそれが自信となり、何が起っても自分がぶれなくなるのだ、とおしえてくださいました。私も失敗がこわくて逃げてしまうのではなく、失敗をいかそうという気持ちで失敗を恐れずに何でもトライしてみようとおもいました。青木さんのお話は今後どのような意識で高校生活をおくっていくべきかという点でとても参考になり、貴重なお話をきけてよかったとおもいました。

ディレクトフォースでは他にもたくさんのかたの体験談を聞くことができました。そして、どの人も共通してリーダーシップがあり、さまざまな角度から物事をとらえているの

だなあ、と感じました。世界を相手にして仕事をするときには、やはりこのようなスキルがかかせないのだと改めて実感しました。わたしは、今回このようなめったにない体験をして、国内にとどまらずに海外に進出することが今後の社会で生きていくうえで必要だと知ることができました。少なくとも、海外まで目をむけられるようなひとにならなければいけないと思います。なので、そのような人間になれるように今回の体験で学んだことをこれからの生活でいかしていきたいです。